

# 令和3年度 第1回日田市森林整備推進連絡協議会 議事録

日 時：令和3年9月24日（金）10：00～12：00

場 所：日田市役所 7階 中会議室

## 次 第

1. 開会
2. 農林振興部長あいさつ
3. 委員の委嘱
4. 委員紹介
5. 委員長選出
6. 委員長あいさつ
7. 協議内容
  - (1) 令和2年度森林環境譲与税の取組について 資料1
  - (2) 今後の取組について 資料2
8. その他
9. 閉会

### 6. 委員長あいさつ

（長委員長）

前期に引き続きまして、委員長を拝命いたしました。どうぞよろしく申し上げます。譲与税が全国市町村に配分される中で、日田市は先進地であり全国が注目しているところである。皆さんの協力をもって譲与税らしい使い方がされるように皆さんのアドバイスをいただきたいと思えます。

### 7. 協議内容

（長委員長）

それでは、協議内容に入ります。(1)令和2年度森林環境譲与税の取組について、事務局より説明をお願いします。

事務局 資料1説明〔省略〕

（長委員長）

事務局から説明がありましたが、何か質問・ご意見ありましたらよろしくお願ひいたします。  
なお、この場でいただくご意見は、提言として扱うもので、この場で出た要望に事務局が回答

していく、という場ではないことを確認しておきます。

(委員)

森林経営管理事業について、具体的に何をしたのかお聞きしたい。

(事務局)

P2の1番ですが、(1)のデータ計測の内容について、資料P4～P6にかけて、アジア航測に委託した成果を記載している。

(委員)

わかりましたが、航空解析のデータについて、私たちもぜひ活用したい。森林の中で森林経営に適した箇所を把握したい。また、森林経営計画を作成しているものの、経営に適さないところの把握など、そのようにデータを使いたい。

(長委員長)

質問の内容は、自分の管理している山林に対し、航空データを活用したいという要望ですね。

(委員)

要望として申し上げるなら、森林環境税なので森林をよくするための税金だと思っている。国民の誰に聞いてもそういつている。森林を守り管理することに活用しないと意味がない。

個人の経営の中では解決できないような、そうしたデータの活用や経営に適さない森林の検討等に使うよう、ぜひ検討してほしい。

(長委員長)

私もぜひ活用したい。境界確認にも活用できればいいと思う。

(委員)

資料P4に森林資源解析について、航空計測データは平成28年のものらしいが、このデータをいつまで使うのか？ほかの地域にも同年のデータを利用していくのか。

(事務局)

資料P4の森林資源解析のうち、地形解析には大きく変わらないので今後も使えると考えている。資源解析については、南部は林野庁のものを活用し、北部については令和2年度に大分県が撮影しているのでそれを活用している。費用も高額なので毎年撮り直すものでもないと考えており、資源解析については、デジタル化が進む中、日田市だけの問題ではないので、タイミングを見計らいながら、地域森林計画の見直し等に合わせて県と協議しながら行う。

(長委員長)

山も変化をしているから、その変化をどのように反映していくか、という問題ですね。

これだけ金額をかけてやったのだから、発表の場を設ける必要がありますね。発表会・講演会

などを開いてください。どちらにしても発表してほしい。

**(委員)**

資料P3の9番、大消費地販路拡大の中に、プロモーション活動、大分材利用促進協議会負担金については、木材利用促進協議会の方と製材所の組合とで意見交換をしながら、販路を具体的に見据えていきたいと考えるが、そういった機会が出来ますか。

**(事務局)**

大分材利用促進協議会については、大分県内の姫島村以外の市町村が加入している。販路拡大を目的に大消費地の製品市場等に大分材のブースを設置し、バイヤーへも含め大分材をPRしているもので、大消費地で使ってもらうため、大分県が2年前から取り組んでいる。日田材の提供は木協が主体となって行っている。直接の意見交換は難しいかと思うが、市から意見を出していくことは可能である。

**(長委員長)**

そろそろ時間でございますので、先を進めます。2番目、今後の取組について、説明をお願いします。

**事務局 資料2説明〔省略〕**

**(長委員長)**

事務局から説明がありましたが、資料1、2併せてご質問・ご意見を受けます、よろしく願います。素材生産の方はどうでしょうか。

**(委員)**

木材等生産機能を重視する森林ですが、林業専用道など路網ばかり入れても、これからは危険な箇所が多くなる。民家があったりして上部に道を入れると、豪雨時には災害等につながる。道を入れる基準を日田市で決めてもらうとよい。タワーヤード、スイングヤード等、木を架線で搬出する作業もあるのだが、例えばワイヤーが痛むので取り換えをするが1000mで15~20万円程するので、そういったところに助成をつけてもらえると安全に架線作業もできると思う。

**(事務局)**

P8の制度の進め方のところですが、この2年間抽出した未整備森林の中で道を入れるようにトライしてきたが、急傾斜地等でなかなか新規路線は難しく、入れられるところは既に道が入っている。無理に入れていくのは困難なので、既存の道を改良していく。新設も考えなくては行けないが、併せて、架線集材の支援策が課題であると認識としている。

**(委員)**

全線を道とか架線とか分けるのではなく、架線でも途中まで道を作って、そのあと架線で行くのがよいと考える。

(長委員長)

原木、木材関係の方はどうでしょうか。

(委員)

すごいお金をかけた解析データの公開だと思うので、楽しみにしているので使える情報をお願いしたい。

(委員)

空調服導入をお願いしたい。

(事務局)

空調服については、川上のほか、原木市場、製材所でも導入補助を行っている。

(委員)

P10「ひたらずむ」の活用ですが、産業観光の取組には大いに期待している。奈良の材木店が20年前から大阪工務店とタイアップしながら、大阪市民を奈良の山中に連れていき植林や交流会をした結果、奈良県内の販売に関して潤いを持っている。

住宅に関しては、コストカットされる一方なので、福岡の工務店と組んで福岡市民を水源に連れてきて、環境や内装材による癒しとかを知ってもらうことで、日田材を思う値段に価格決定できるような風を持っていければと思う。人がどのように癒されるかなど、旅館の一室を日田杉で作り泊まってもらう。教育とかそういった体験も充実したものに育ててもらいたい。

(委員)

木材利用の促進ということで、木づかい促進事業は一般財源で行っているが、譲与税を使って拡充できないか。

(委員)

P3：森林整備総合対策事業の中で、除伐・雑木伐りの補助金の上乗せはできないか。

P8：市が主伐・再造林を行う特段の場合とは？

(事務局)

「ひたらずむ」については、産業と文化を観光資源ととらえるべきではないかとの考えから、日田でいうと林業・木材産業であり、山の現場や、製材所の風景、原木市場の風景を観光に盛り込んで、教育研修でもあるので取り組んでいきたい。

旅館の木質化は、内装を木質する場合には、木の香る街づくり事業で旅館の方に活用していただきたい。木づかい促進事業は好評で、8月には終了した。家具にも引き換えできる事業ですが、一昨年からリフォームの需要がかなり多いことは承知している。譲与税の性質上、個人の財産の形成には当てられないと考えている。

除伐の上乗せは、日田市としては既に行っている。

特段の事情の件は、市の市有林が既に1,600haある中で、基本的には民間の力を借りて、主伐・再造林を行ってもらいたいと考えている。その中でどうしてもできないところは譲与税を活用して実施することとなるが、他の市町村も含め、制度上はあるが、あまり活用を想定していない。

**(長委員長)**

その他、いかがでしょうか。

**(委員)**

環境問題として、プラスチック製品を木に置き換えることに関して、開発研究費用を出して、新しい産業を作ってもらいたいと考える。そういうことに環境税を充当することはできるか。

**(事務局)**

研究費に譲与税を充てることは、馴染まないため難しい。現在、机椅子の試作品開発については国庫補助事業を活用しており、学習機を導入するときは譲与税を活用する予定。

**(委員)**

九州電力との事業は本当にできるのか。本来、九州電力が行うべきことではないのか。

P8の林業専用道や基幹作業道の開設については、大分県に採択されないといけないのか、採択条件等を教えていただきたい。

**(委員)**

既設作業道の機能強化の中に、雨水処理に対する補助をしてもらいたい。近年の豪雨で林道の横が壊れているのが見受けられる。林道の雨水処理、集水してワンクッション入れる蛇籠などの工事に助成をしてもらいたい。

**(事務局)**

九電の事業はご指摘のとおり。電線の周囲2mまでは九州電力が行うが、根元からの伐採や5mくらいの範囲を伐採するなど九州電力だけではできないところを検討している。

P8の林業専用道や基幹作業道の整備補助については、まずは未整備森林区域に選定されてから、その中での採択ということになる。それ以外は、既存の国県補助のほか、公共造林補助等で対応してもらいたい。雨水処理は現在、前津江で検討している。

**(委員)**

これほど木を積んだトラックが走っているところはなかなかなく、さすが林業地と感じている。森林の価値がわかっていただけない人がいるが、どうやって森林の価値を知らせていけるか。その1つとして、木材を利活用していく、森林の機能を多くの人に知ってもらう。そうして、木材の価値が上がっていく。こういったことを知らしめる手段として環境譲与税を活用していただき、木材を使っていただく。そうやって、森林整備にお金を使い、山にお金が入るようになって行くとよいと考えている。

(委員)

防護服・安全服は一人親方でも助成が出るのか。人口減少や過疎化の中、移住した人が森林林業にかかわり、小さい林業を始める際に、個人事業主で始めるにはハードルが高いし、修業が必要。林業を始めるときに、林業機械を助成したり、幅員2m程度の作業道の開設に対し、補助が出ると入り口が広くなると思う。

(事務局)

チャップスや安全靴については、市独自のため一人親方でも助成している。空調服は、県補助も含まれるため、認定事業体のみの助成となる。日田に住民票がある方で、労災保険に入っている方が対象となる。

(委員)

県としては、譲与税の活用は市町村と協力している。日田市は全国を引っ張るようにしてくれている。来年度も、連携して取り組みたい。

(委員)

早生樹研究会の会長を行っている。再造林の低コストなシステムを検討していきたい。ツリーシェルターの補助金、コウヨウザンの助成がやっと始まった。市も新しいシステムへの支援をお願いしたい。シェルターが1500本しか補助が出ないのはどうにかならないか。

(事務局)

シェルターの1500本/haは、市も県に要望をしている。県は疎植による低コスト化を指向している結果だと思うが今後も要望をしていく。

(委員)

4年度以降の木材利用として小中学校の学習机は大変良い。お願いしたいのは、全国的に配分されている譲与税を、どのようにしてとるか。木堀や学習机など、譲与税の使い道のないところに使っていただける、セールスを考えてもらいたい。

(事務局)

我々としても、そこは強く求めているところで、他の譲与税を持ってくることによる日田の材の利用拡大を市も考えていきたい。

## 8. その他

## 9. 閉会

(事務局)

担い手対策では、林業体験ツアーを計画しており、10名の応募をいただいている。

委員の皆様のご意見を踏まえ、適切に推進していく。本日はありがとうございました。

令和3年度第1回日田市森林整備推進連絡協議会委員名簿

任期：令和3年5月11日～令和5年3月31日

No	所属	役職	氏名	備考
1	大分県林業経営者協会	顧問	長 哲也	
2	日田市森林組合	代表理事専務	和田 正明	
3	日田郡森林組合	課長	桑野 哲治	
4	日田木材協同組合	課長	井上 勝喜	
5	日田地区原木市場協同組合	代表理事	田中 昇吾	
6	日田素材買方協同組合	理事長	横尾 達也	
7	大分県樹苗生産農業協同組合	日田支部長	穴井 俊一朗	
8	大分西部地域林業結衣の会	副会長	諫山 啓輔	
9	山友会	会長	河津 修一郎	
10	前津江森林産業事業協同組合	理事長	綾垣 新市	
11	株式会社トライ・ウッド	課長	津軽 一生	
12	田島山業株式会社	代表取締役	田島 信太郎	
13	マルマタ林業株式会社	企画総務	合原 万貴	
14	九州林産株式会社	部長	松尾 正信	
15	中国木材株式会社	課長	飯干 好徳	
16	大分西部森林管理署	署長	津脇 晋嗣	
17	大分県西部振興局農山村振興部	部長	神鳥 浩明	

(順不同)

事務局：日田市林業振興課